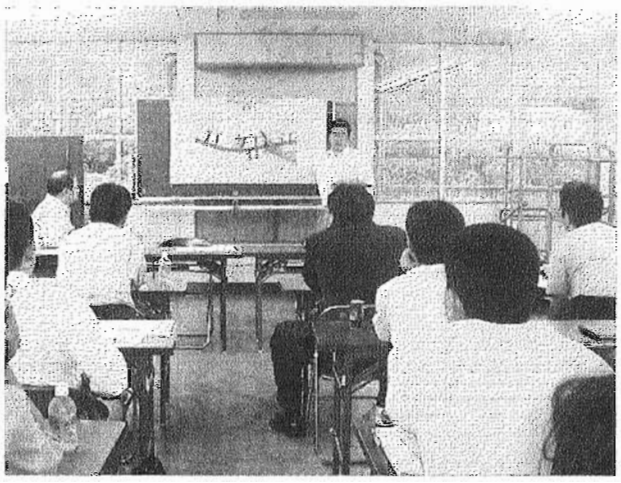
事業化へ向けて協議

奄美PFI研究会がセミナー

奄美PFI研究会（村上慎一郎代表）は9日、名瀬市役所4階会議室で定例セミナーを開き、末広・港地区区画整理計画見直し案説明や今後の事業化スケジュールについて話し合った。

まず名瀬市まちづくり推進課の西元昭一郎課長補佐が、先月行われた土地・建物所有者対象の説明会で出したシンボルロード見直し案について触れ、最近の経済動向やキーテナントとなる大型店舗進出の見通しが立たなくなったこと等を考え、道路幅員を縮小、また新たに道路新設するなどでなるべく多くの店舗が道路に隣接する計画への変更に至った経緯を説明した。また「同研究会は15年くらいかけてソフトランニングする予定だったが、奄振期限切れ問題や最近の市町村合併問題の進展を見るにつけ2、3年後にはPFI事業化が必至の状況になってきた」と話し、今後は勉強会だけではなく事業化実現に向けての早急な取り組みの必要性を訴えた。その



早急な事業化の必要性を話す西元氏
＝名瀬市役所会議室で

し案についての地権者への個別訪問を実施し約80%の賛同を得たこと、反対運動の現状などについての報告も行った。

会員らは「合併問題に精通した人を招き話し合

応急手当普通救命講習会

県建設業協会川内支部

勇気持ち初期手当てを

県建設業協会川内支部（田代藤夫支部長）は10日、川内市の川内建設会館で応急手当普通救命講習会を開き、参加者は早い応急手当の重要性と手当法を真剣に学んだ。なお、講習会は11日まで開催される。

同講習は、全国安全週間を前に同支部の安全衛生教育の一環として今回初めて企画したもので、会員社から代表1人が10日に38社、11日に40社参加。受講後は修了証が発行される。

10日の開講前には、今屋純一副支部長が「現場において人命にかかわる災害が発生してはならないが、心臓発作などの急病者が出るかも知れない。職場や家庭でも役に立つので応急手当法を学び、万が一に備えてほしい」と挨拶。引き続き、山下政則川内中央消防署長が「急病やけが人が発生した場合、落ち付いて119番に通報して救急車を要請すると共に、居合わせた人が勇気を持って心肺蘇生法などの応急手当を行う事で一命を救う事になります。本日の講習で初期手当法を身につけて人命救助に役立てて下さい」と挨拶した。

講習は、同消防署の救急命士により、テキスト、ビデオを使った机上説明の後、特殊人形を使用して交替しながら全員が心肺蘇生法手順の実技講習を受け、出血時の止血法、骨折・熱傷（やけど）・溺水の応急手当など全般にわたる初期手当を真剣に受講していた。

心肺蘇生法等を学んだ講習会
＝川内市の川内建設会館で

全国都市緑化フェア研修旅行

県造園建設業協会

花、緑の素晴らしさ体験

県造園建設業協会（丸山重之会長）はこのほど、大分県で開催中の第20回全国都市緑化おおいたフェアに研修旅行を実施し、会員ら23人が参加して花や緑の素晴らしさを体験した。

研修旅行で記念写真に納まる会員ら
＝大分県の現地で

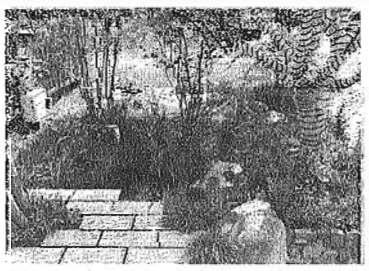
若い従業員も駆けつけて行われた献血
＝鹿児島市の日本赤十字血液センターで

一行は、初めにごみの埋立地を有効利用して造られた佐野植物公園の会場に出向き、有機栽培によるモデル菜園の展示や環境活動の紹介などを見学。また、大分スポーツ公園では、全国各地の自治体や企業、学校から花壇や庭園などの作品が集まり、参加者はさまざまな花や緑、香りの中で素晴らしい体験をした。同フェアには、鹿児島からも県が「青空に噴煙を上げる雄大な桜島」、同協会が「春の里山」と題した作品を出展している。

有村勝則副会長は「高度な技術に感動して帰ってきました。ぜひ、鹿児島での開催を実現したい」と語った。

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識高揚・普及啓発を図り、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として昭和58年の「おおさかフェア」を皮切りに全国各地で毎年開催されている。

なお、同フェアは6月29日まで開催される。



フェアに出展された作品「春の里山」

県木工技能士会団体献血

梅雨の血液不足に一役

県木工技能士会（窪園和秋会長）は10日、鹿児島市の日本赤十字血液センターで毎年恒例の団体献血を実施し、会員をはじめ会員事業所の若い社員ら多数が参加した。

同技術士会の団体献血は、会員の手術に血液が必要となり会員が集まって善意で献血に協力したことがきっかけでスタートしたもので、以来、社会奉仕の一環として恒例行事の一つとして毎年実施しており、今回で26回目を数える。

当日は、会長をはじめ会員や若い従業員ら多数が忙しい仕事の合間をみて同センターに駆けつけた。同センターの職員は「これからの梅雨時と暑い夏場にかけては血液不足に拍車がかかる。このような団体献血は大変ありがたく感謝している」と感謝の言葉を述べた。

毎年のように献血に参加している窪園会長も「会員の高齢化により献血したくてもできない状況もあり、実施が危ぶまれたが、事業主の理解と協力で若い従業員が大勢駆けつけてくれた。4半世紀を越える恒例行事でもあり、ボランティア精神のもと、できる限り継続して実施していきたい」と語った。

ウオーターフロントフェスタ

一般ボランティア募集

かごしまウオーターフロントフェスティバル実行委員会（玉川浩一郎委員長）は、7月20－21日に鹿児島市のウオーターフロントパーク（鹿児島港本港区）で開催する「かごしまウオーターフロントフェスティバル2003」の一般ボランティアを募集を開始した。

今回で16回目を迎え、夏の風物詩としてすっかり定着した同フェスティバルは、毎年約500人ものボランティアが大会運営に協力。大会内容が充実するにつれて、年々参加者も増加し、安全でスムーズな運営を営むために今回も同程度以上のボランティアが必要となる。

業務内容は、インフレット配布、迷子や紛失物の本部運営とシーカヤック体験試乗やサンセットクルージング等の管理・運営、5000席ものマリンテラスの管理・清掃、会場内の清掃、警備など多岐にわたる。

応募資格は満18歳以上の男女。参加は期間中の2日間もしくは1日だけでも可能で、参加者にはTシャツや食事・飲み物等が提供されるほか、駐車場も確保される。

問い合わせ及び申し込みは、かごしまウォーターフロントフェスティバル実行委員会（鹿児島市本港新町3、北埠頭旅客ターミナル2階 ☎099・222・3838 FAX222・3833）まで。FAX、Eメール（wf@po4.synapse.ne.jp）のほか、同委員会のホームページ（http://www4.synapse.ne.jp/kwf）からも登録できる。

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ